

式 辞

暖かくなると、鳥が鳴き、梅が香り、春の訪れを感じる頃となりました。この佳き日に、令和五年の卒業式を挙げるにあたり、瀬戸内市教育委員会教育長東南伸行様を始め、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、このように盛大に執り行えますことに、心から感謝申し上げます。

また、卒業生のみならず、みなさんを始め保護者の皆様と地域の方々と共に、この日を迎えられることに喜び申し上げます。

みなさん、御卒業おめでとうございます。皆さんは今日、卒業式という大きな節目を迎え、九年度の義務教育を終えて、それぞれの進路に向かって巣立っていきます。さて、新型コロナウイルスが二類から五類になり、今までの学校生活が少しづつ戻ってきました。その中で行われた体育会、雨で一日延びましたが、三年生が中心となり六色の傘を使った全体育技でのマスタゲームは、体育会を盛り上げ、生徒同士の絆と「邑笑」の笑顔を作り上げてくれました。

邑輝祭では、閉会式で全校生徒に呼びかけ、肩を組んで、高らかに校歌を体育館に響き渡らせてくれました。

昨年は、卒業生と共に制服の検討など校則の改正にも取り組みました。

みなさんが取り組んだ学級討議や生徒総会、決して人ごとではなく、物事の考え方、活動や行動を起こすためのルールや方法です。行動を起こしたり、新しいことを始めたりすること、反対に、今までのことを守り継続していくことは、どちらも大変なパワーと知恵が必要です。

この経験はみなさんには、これからの人生の中できっと役に立ててくれると信じています。

みなさんは、車椅子テニスを知っていますか、今日は、みなさんに昨年、三月一七日にスポ一選手として十一月の国民栄誉賞を受賞した国枝慎吾選手の話をしてと思います。国枝選手は、九歳の時に脊髄腫瘍が見つかり車椅子生活になります。そして十一歳の時、母親のすすめで、車椅子テニスを始め、二十歳の時から十七年間、世界ランク一位をキープし、東京パラリンピックでも優勝し、世界ランク一位のまま昨年度一月に引退しました。

国枝選手は、世界一位になったとき「対誰か」で戦うのではなく、「対自分」と考え、「俺は、最強だ。」と書いた文字をラケットに張り、ピンチの時には、それを見て、「俺にはできる。」と自分を奮い立たせたそうです。

三年生のみなさんも、卒業後、たくさんのピンチや困難に出会うことがあると思います。そのときには、「あきらめず、投げ出さず、努力を続ける気持ち。」が大切です。あきらめてしま

っては、そこですべてが終わってしまいますから…。

しかし、国枝選手はこうも言っています。「勝ち続けると自分を変えられなくなる。時には、負けることも必要。」そして、「大事なものは、負けからどうやって自分を立て直し、ステップアップにつなげるか。」

人は、失敗したり、どんなに頑張ってもうまくいかないことがたくさんあります。成功の数よりも多いかも知れませんが、そんなとき、それをどう改めて、次の自分にどのようなようにつなげるかが大切です。

そして、国枝選手が頑張れた理由のもう一つは、支えてくれている妻や、テニスを進めてくれた母親や亡くなった父親、コーチやトレーナーへ感謝し、車椅子テニスを頑張ることでパラ

スポーツをたくさんの人に広めたいという思いがあったからとも言っています。

我々が頑張れるその陰には、見えないうところで支えてくれる人たちが必ずいます。そんな人に感謝する気持ちが自分を応援してくれるたくさんの人を増やしていきます。

邑久中学校を巣立っていく三年生のみなさん、みなさんはこれからの生活の中で、国枝選手のように、「何事にも粘り強く挑戦し、失敗を自分のバネに変え、感謝する心で自分の応援団

を増やしていける。」そんな人であってほしいと思います。そしてこれからも、みんなの後を後輩たちが喜んで目標

とし、ついて行けるそんな先輩であり続けてほしいと思います。

終わりになりましたが、御列席頂きました保護者の皆様方、三年間にわたり皆様にとってかけがえのない大切なお子様をお預かりし、生徒一人ひとりに全教職員で一丸となって指導に取り組み、この三年間、本校の教育活動に格別の御理解と御協力をいただきましたことを、教職員共々、心よりお礼申し上げます。

御来賓の皆様、地域の皆様も含めまして、改めて本校にお寄せ頂きました数々の御支援と御協力に感謝するとともに、卒業生の限りない

未来を祝福して、式辞といたします。

令和六年三月十二日

瀬戸内市立邑久中学校長 松田典久